1990年代～現在につながる沖縄音楽

沖縄のインディーズから メジャーへ

インディーズバンドが人気を呼び、2001年MONGOL800の『MESSAGE』、2003年HYの『Street　Story』がオリコン1位を記録。続いて、ORANGE RANGE、D-51、HIGH　and　MIGHTY COLOR、かりゆし58などがメジャーデビュー。拠点を沖縄に置き、全国で活動するバンドが多く現れました。

沖縄のラップ・ミュージック

沖縄独自の歴史と社会が育んだラップミュージシャンたち。2006年『Inner Research』でデビューしたAwichは、渡米後、2020年にメジャーデビュー。唾奇は、2017年ビートメイカー・プロデューサーSweet　WilliamとのアルバムJasmineが高評。Rude-αは、『第6回BAZOOKA!!全国高校生ラップ選手権』に沖縄代表として出場、準優勝。

おばぁが活躍する ミュージック・シーン

1946年結成当時のメンバーで活動する「白百合クラブ」（石垣市白保）、2004年那覇市栄町市場で新城カメ、上地美佐子、高良多美子が結成した「おばぁラッパーズ」、「読谷ばあちゃん合唱団Z」（読谷村）、「小浜ばぁちゃん合唱団（KBG84）」（八重山小浜島）と80歳を超えたおばぁも、各地で大活躍。

参考文献
沖縄音楽の歴史（WEB）/Awich オフィシャルウェブサイト（WEB）/
唾奇-HITO-(@tubaki_hito)Instagram（WEB）/Rude-α OFFICIAL WEBSITE（WEB）

沖縄音楽の伝道者たち

ネーネーズ、BEGIN、ディアマンテス、新良幸人、日出克、石嶺聡子、夏川りみ、Kiroro、Cocco、やなわらばーなどが県内外で活躍しています。また、宮古島生まれの下地イサムは、宮古島の言葉（ミャークフツ）でのオリジナル曲を広めています。

沖縄への思いをこめた歌

寺島尚彦作詞・作曲「さとうきび畑」（1967年）、宮沢和史作詞・作曲「島唄」（1992年）、平田大一作詞・イクマあきら作曲「ダイナミック琉球」（2008年）は、沖縄に心を寄せた県外アーティストらの歌です。

アクターズスクール出身者の活躍

1995年、安室奈美恵withスーパー・モンキーズの「TRY ME ～私を信じて～」がブレイク。以降、MAX、SPEED、DA　PUMP、知念里奈、Folderとアクターズスクール出身のグループが次々とデビューし、ハイレベルな歌唱力とダンスで日本中を魅了しました。

2000年代沖縄のプレゼンス

2000年主要国首脳会議（九州・沖縄サミット）で、安室奈美恵が「NEVER　END」を披露、2018年には県民栄誉賞受賞。NHK「連続テレビ小説」で、2001年度前期『ちゅらさん』で八重山の小浜島、2022年度前期『ちむどんどん』で沖縄本島北部出身のヒロインが登場しました。

参考文献
『オキナワン・ミュージック・ガイド　フォー・ビギナーズ』磯田健一郎＋黒川修司　東亜音楽社/
『沖縄音楽ディスクガイド』TOKYO FM 出版/沖縄音楽の歴史（WEB）/IMPERIAL RECORDS（WEB）/
THE BOOM｜ソニーミュージックオフィシャルサイト（WEB）/イクマあきら－徳間ジャパン（WEB）/沖縄タイムス(WEB)/
LMusic-音楽ニュース（WEB）/ORICON NEWS（WEB）

日本の音楽史に名を残す沖縄の音楽家

琉球古典音楽の人間国宝　大湾 清之（おおわん きよゆき）

大湾清之は琉球古典音楽野村流の父・清之助に学び、1966年には安富祖流の大家・宮里春行に師事しました。琉球古典音楽の品位ある演奏と理論的研究による『仲節』『長ヂャンナ節』などの復曲が評価され、2023年に人間国宝に認定。

那覇市歴史博物館 提供

研究者&音楽家 山内 盛彬（やまうち せいひん）

琉球王府に仕えた祖父・盛熹から湛水流、野村流の琉球古典音楽を学び、琉球王国時代の祭祀の歌クェーナ、おもろ、儀礼音楽の御座楽などを楽譜に残しました。音楽学研究に加えて、戦後復興の象徴「ひやみかち節」などの作曲でも知られています。

那覇市歴史博物館 提供

沖縄のフォスター　宮良 長包（みやら ちょうほう）

1883年石垣島生まれの宮良長包は、教師の仕事の傍ら、「新安里屋ユンタ」など八重山民謡の編曲、改作や「えんどうの花」「汗水節」「だんじゅ嘉利吉」など100曲以上を作曲。多数の郷愁歌を残したことから、アメリカの作曲家S.C.フォスターに重ね合わせられます。

那覇市歴史博物館 提供

西洋クラシック界の沖縄音楽作曲家　金井 喜久子（かない きくこ）

1906年宮古島生まれの金井喜久子（旧姓:川平）は、日本音楽学校で声楽、東京芸大で作曲を学び、1940年日本人女性初の「交響曲第1番」を公演。沖縄本島や先島諸島などの歌を採譜し、『琉球の民謡』を出版しました。1971年「じんじん」で第13回日本レコード大賞童謡賞受賞。

©OCVB

作曲家・音楽プロデューサー　普久原 恒勇（ふくはら つねお）

西洋クラシックやボサノバ、リズム&ブルースなど、様々な音楽要素を取り入れた普久原恒勇の作品は、400曲以上。「芭蕉布」をはじめ、「ヘイ!二才達」（NHK「みんなのうた」（1975年）、歌:南沙織）、饒辺愛子の「肝がなさ節」、カチャーシーの定番曲「豊年音頭」なども。

戦後からバブル期を繋いだ民謡歌手たち

三線の早弾き「アッチャメー小」の登川誠仁。型にはまらない節回しの嘉手苅林昌。デュオを組んだ大城美佐子の高音は、「絹糸声（いーちゅぐぃ）」と呼ばれました。登川誠仁の弟子・知名定男は、「バイバイ沖縄」で大ヒット。古謝美佐子らを初代ネーネーズとしてプロデュースしました。

参考文献
『芭蕉布　普久原恒勇が語る沖縄・島の音と光』磯田健一郎　ボーダーインク/『沖縄島唄紀行』藤田正　小学館/『オキナワン・ミュージック・ガイド　フォー・ビギナーズ』磯田健一郎＋黒川修司　東亜音楽社/『沖縄音楽ディスクガイド』TOKYO FM 出版/琉球新報(WEB)/沖縄LOVEweb(WEB)/women's action network(WEB)/沖縄タイムス(WEB)/HUB沖縄(WEB)/宮良長包協会ホームページ(WEB)/沖縄音楽の歴史（WEB）/沖縄ちゅらサウンズ（WEB）/リスペクトレコード（WEB）

組踊音楽歌三線の人間国宝　城間 徳太郎（しろま とくたろう）

城間徳太郎は、1964年に組踊の名優、真境名由康に師事し、作品に対する深い洞察による高度な演奏技法には組踊に関わる実演家からも厚い信頼が寄せられ、2005年人間国宝に認定されました。

組踊立方の人間国宝　宮城 能鳳（みやぎ のうほう）

宮城能鳳は、1961年、宮城能造に師事。琉球古典舞踊と組踊立方の修行を始め、琉球古典舞踊の技術に裏打ちされた組踊立方の特に女方の演技に優れ、品格を備えた独自の技能が高い評価を得て、2006年人間国宝に認定。2024年日本芸術院会員選定。

組踊音楽歌三線の人間国宝　西江 喜春（にしえ きしゅん）

西江喜春は、1963年に安富祖流の宮里春行に入門。確かな演奏技法と、豊かな声量、艶やかな声の響きと緩急自在の表現によって、役柄の心情を情感豊かに歌い出す表現力に優れており、2011年人間国宝に認定。

組踊音楽太鼓の人間国宝　比嘉 聰（ひが さとし）

比嘉聰は1972年、太鼓を島袋光史、歌三線を棚原忠徳に師事しました。曲調や曲想を的確に捉え、端正で抑制のきいた演奏は、組踊を豊かに表現するものとして高く評価され、2017年に人間国宝に認定。

琉球古典音楽の人間国宝　中村 一雄（なかむら いちお）

中村一雄は1970年、琉球古典音楽野村流の野村義雄のもとで学び、1974年には知念秀雄にも師事しました。歌詞と曲想を的確に捉え、味わい深い歌声によって情感豊かに表現する演奏が高く評価され、2019年人間国宝に認定。

琉球舞踊の人間国宝　宮城 幸子（みやぎ ゆきこ）

宮城幸子は1951年に琉球舞踊家の真境名佳子氏に師事しました。琉球舞踊立方の伝統的な演技技法を高度に体現し、後進の指導・育成に尽力していることが評価され、2021年に人間国宝に認定。

琉球舞踊の人間国宝　志田 房子（しだ ふさこ）

志田房子は1940年に玉城盛重に師事しました。伝統的な演技技法を体現し、古典舞踊から雑踊まで卓抜した技量を示して、琉球舞踊の発展と継承に努めていると評価され、2021年に人間国宝に認定。

※人間国宝とは、「重要無形文化財保持者として各個認定された人物」を指す通称です。

参考文献
『みんなの文化財図鑑』（無形文化財編（芸能・空手・古武術））(WEB)/沖縄タイムス(WEB)/琉球新報(WEB)

沖縄の音楽を支えるあれこれ

©OCVB

街角の芸道研究所

沖縄には、三線や琉球舞踊のお稽古をする私設の「研究所」や「道場」があちこちにあります。王族や士族階級、琉球王国の官僚が担った音楽や舞踊を一般の人々に広め、戦後沖縄の復興とアイデンティティ創出を支えてきました。

地域芸能を育む公民館

中央公民館では生涯学習講座、自治公民館では地域の担い手を中心に、三線や琉球舞踊、フラダンス、大正琴などさまざまなサークル活動や、棒術、獅子舞、エイサーなど、地域芸能の継承拠点となっています。

県立の音楽・芸能の専門教育機関

1990年設置の沖縄県立芸術大学音楽学部では、琉球、西洋、日本や諸民族の音楽・芸能の専門的技能や理論が学べます。沖縄県立開邦高校の芸術科・音楽コース、沖縄県立南風原高校の普通科郷土文化コースでは、それぞれ専門の授業があります。

芸大はオープンキャンパスがあるらしい。
みんなも行ってみよう！

参考文献
しまかる　沖縄県文化情報ポータルサイト(WEB)/沖縄県立芸術大学(WEB)/沖縄県立開邦高校(WEB)/琉球朝日放送(WEB)/
シンガク図鑑ポータル(WEB)

©OCVB

音楽が集う場

組踊（くみおどり）の継承者（けいしょうしゃ）の育成、調査研究機関として、2004年浦添市に国立劇場おきなわがオープン。シュガーホール（南城市）、がらまんホール（宜野座村）、てだこホール（浦添市）、なはーと（那覇市）などでは、さまざまなコンサート等が行われています。

車社会・沖縄のラジオ番組

車での移動中の聴取に便利なラジオ番組。「民謡で今日拝なびら」（RBCラジオ）は、1963年2月から放送。FM沖縄では1985年4月～2001年3月、日本語、英語、ウチナーグチを交ぜた軽快なトークによる「ポップンロール・ステーション」が放送。民謡やウチナーグチを使った番組で、沖縄音楽の魅力を伝えています。

ウチナーンチュが作ったレコード

1927年大阪で普久原朝喜がマルフクレコードを創業。ふるさとの歌と新民謡を広めました。1959年息子の普久原恒勇らが本拠地を沖縄に移転。1970年キャンパスレコードを開店した備瀬善勝は、1975年から嘉手苅林昌、登川誠仁、知名定繁らのレコード制作を始めました。

参考文献
那覇市歴史博物館　那覇劇場跡（WEB）/国立劇場おきなわ（WEB）/
琉球放送　民謡で今日拝なびら(WEB)/沖縄タイムス(WEB)/琉球新報(WEB)/
Internet magazine Beats21(WEB)/リスペクトレコード(WEB)